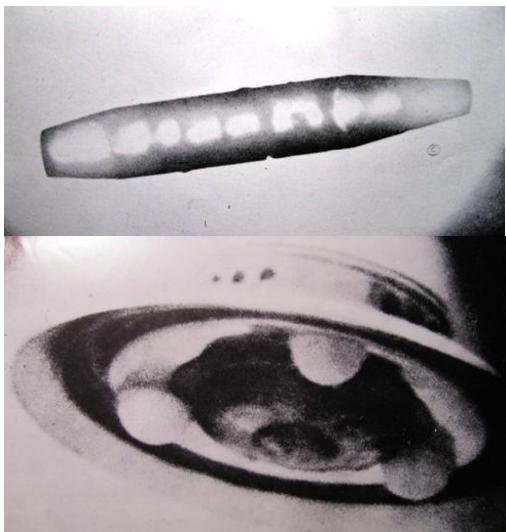


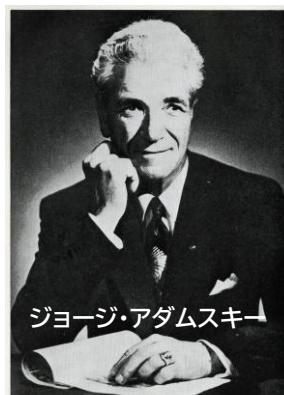
宇宙の使者 G・アダムスキー

～この太陽系内のすべての惑星に地球人と同じ人間が存在している～

聖なる教え「ロイヤルオーダー・オブ・チベット」を主宰していたジョージ・アダムスキー氏は、弟子からもらった望遠鏡で宇宙を観測していた。ある日から、謎の飛行物体をよく見るようになり、その写真撮影に成功した。1952年11月20日、アメリカのモハーベ砂漠に仲間たちとUFO観測に出かけた時、上空に葉巻型母船が現れ、丘の向こうへ消えた。アダムスキー氏は一人その方向へ向かって歩いていくと、着陸していた空飛ぶ円盤から降りてきた金星人と出会う。アダムスキー氏はその宇宙人を「オーソン」と呼んだ。その後、地球に来ている宇宙人とカフェ等で会談するようになり、宇宙船に乗船して、月や金星、土星への旅に案内される。



宇宙大母船の中には、多くの美しい男女がいた。金星人オーソン、カルナ、火星人ファーコン、イルムス、土星人ラミュー、ズール（仮称）ほか、2人の長老からは、地球で行われている原子力開発の危険性や人間の使命、地球文明の進化等について啓蒙を受ける。月にも人間が住んでいる、金星では生まれ変わった生前の妻と面会、土星では太陽系12惑星会議に出席。アダムスキー氏は、これらの体験を著書に表すと共に、世界各国へ講演活動に出かけ、宇宙人からのメッセージを伝えて行った。





上図/UFOと宇宙 23号より

【宇宙母船内で、マスターは語る】

▶無限者の果てしない広大さの中には多くの形態(フォーム)があります。すべては『一つの力』、という海の中に浸っており『一つの生命』によって維持されているのです。万物を支えている生命そのもの、そして万物を通じてみずからをあらわしている英知こそ聖なる表現なのです。

▶このことを知らないほとんどの地球人は、自分の個人的な自我の外にある多くの物事に対してひどく非難をしており、万物が自己の目的を現していて奉仕のために創造されたのだからその奉仕をするのであるということに気づいていません。▶創造主こそは人間に対する、いわゆる『生命』の贈り主です。また創造主は私たちを通じて私たちの創造物に対する生命の贈り主でもあり、何を創造すべきかを教えてくれる教師でもあるのです。

▶『ただ一つ』の生命が存在するだけです。その生命は全包容的です。地球人は、二つの生命に仕えることはできず一つの生命だけに役立ち得るのだということを悟るまでは、絶えず互いに反目し合うでしょう。これは、地球の生活が他の諸惑星の生活に匹敵するようになるまでに、全地球人が『知らねばならない』一大真理なのです。（空飛ぶ円盤同乗記より）



<母船から離船するスカウトシップ>

- ・推進力は空間にある磁気エネルギー
- ・太陽系には12の惑星があり、地球が一番進化が遅れている
- ・進化した惑星には戦争・病気・貧困等がなく、平和で楽しい世界である
- ・地球にも既にフリーエネルギー装置、万能治療器等がもたらされている



金星人オーソン

【宇宙人たちの生き方】

▶宇宙の隣人たちは生きるための原則というものを持っている。これは土台であって、子供の生活をまずこれに基づきつけて大人は大抵はそれから外れないようにしようと努力するもので、次のとおりである。

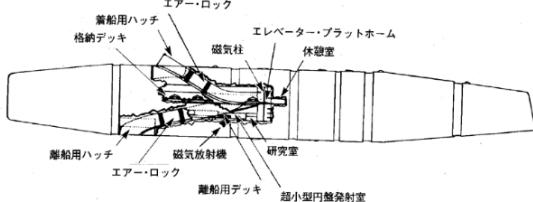
1. 日常の健康と慰安にとって実際に必要なものだけを望むこと
2. 偏愛することなく万人を平等とみなすこと
3. 自分の想念を観察し抑制して、それをいつも宇宙的な状態に保つてること
4. 万物が奉仕し合っていることにたいして感謝すること

▶これは、日々新たに始められることで、彼らは「創造者」に奉仕するため日々がもたらす多くの機会を感謝し、喜びと熱心さをもって新たな日々を迎えるのである。

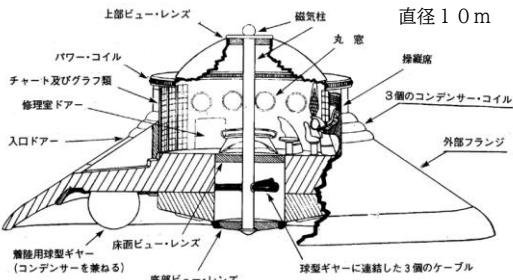
▶彼らは自分自身や自分の想念、印象などを調べているので、地球人がおちいりやすい偏見でそれらを歪めるよりも、その純粋なままにそれらを認めてそれに従って行動することを知っている。金星の人々は心や肉体の病気というものを知らない。われわれが精神的に弛緩することを知ったとき、われわれも彼らの援助の想念にたいしてもっと感受性が高まるようになるだろう。

▶彼らは自分の肉体を愛と誠実とをもっていたわらねばならない、神の創造になる美しい寺院とみなしている。彼らはリズムを楽しみ、自分の体が自然のリズムを表し続けるように努力する。（空飛ぶ円盤の真相より）

土星の母船の断面図



金星のスカウト・シップ(観測機)の断面図



►ジョージ・アダムスキ一略歴(1891~1965)

【宇宙人との交流以前】

1899年～チベットのラサに留学(8歳～12歳)

1925年～米西部を本拠に精神科学と哲学を教え始める。

1933年～「ロイヤル・オーダー・オブ・チベット」活動。

ラジオ局から生命の法則の講義放送もしていた。



【UFO観測】

1946年 パロマガーデンズで、はじめて宇宙船目撃

1947年 184機の宇宙船を目撃

1950年 月面から飛び立つUFO写真を撮影してから、多くの鮮明なUFO写真を撮影する

【金星人オーソンとのコンタクト】

1952年 11月20日カリフォルニア州デザートセンター付近で、金星人オーソンと会見。(この模様は米空軍が上空から観察していた)

【宇宙旅行】

1953年 2月18日初めて空飛ぶ円盤に乗船して宇宙旅行をする

1953年 4月21日、宇宙旅行に招待され月の表面を見る

　　ホテルロビー等で宇宙人と度々会見

1960年 金星へ旅行(生前の妻メリーと一緒に、家や科学施設を見学)

1962年 土星へ宇宙旅行(3/26～30、太陽系12惑星会議に出席)

【GAP/Get-Acquainted Program発足】

1957年 世界中からの問い合わせに答えるために、GAP発足

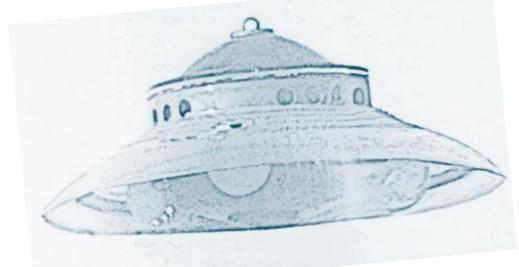
1959年 1月13日～6ヶ月にわたる世界講演旅行

1963年 ヨーロッパ講演旅行、5月31日ローマ法王ヨハネ23世と会見

1965年 4月10日デトロイトで生涯最後の講演/宇宙船建造・地球脱出…

【主な著作】

- ・1933『ロイヤル・オーダー・オブ・チベット』・1937『悪魔即ち時の人』
- ・1949『宇宙のパイオニア』
- ・1953『空飛ぶ円盤実見記』
- ・1955『空飛ぶ円盤同乗記』
- ・1958『テレパシー』
- ・1961『空飛ぶ円盤の真相』
　　『宇宙哲学』
- ・1965『生命の科学』



太陽系の終末期？ 彼らは新しい太陽系を発見して、すでに宇宙船で移住をはじめている